



脚本

ユメヲクウヤマイ

<http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl>

karasuno10

人物

山下光一 (38) 栄光大学付属病院・外科医

村田純一郎 (55) 同・教授

花山敬太 (17) 山下の患者

さわたり

沢渡雪菜 (27) 栄光大学付属病院・看護師

はなやまさだお

花山貞男 (47) 敬太の父

はなやまみつこ

花山満子 (46) 敬太の母

医師達

手術スタッフ

山下光一は一般会社員の家庭に生まれ育った。高校ではアメフト部に所属、部活で怪我をして、病院に通院しているうちに、医者に興味を持つようになる。高校卒業後、山下は医師として、人に関わる事を考えた。成績優秀な山下は栄光大学医学部に進学する。大学卒業後、山下は栄光大学医学部付属病院の第一外科に就職する。病院では教授の村田純一郎が人事権などの権力を握り、医師たちに無言の圧力をかける。多くの医師は村田の心象を悪くする事を避け、従っている。山下と村田はしばしば対立する。山下は回診を大事にする人情家であると同時に、優秀な医者で診断の精度が高い。そのため大学病院への在籍が未だに許されている。

今回、山下は花山敬太の担当医となる。花山は高校で倒れた。村田は花山が、村田の研究する村田病であると助言し、花山への投薬治療が開始される。一方、山下は花山が手術の必要のあるステルス心臓病であると診断する。

① 栄光大学医学部付属病院・病室

相部屋で、パジャマ姿の花山敬太（17）がベッドに横たわっている。

山下光一（38）、入ってくる。

山下「どうだい？ 調子のほうは」

花山「いえ。特に何も……ないっす」

山下「そうか……」

山下、ベッド脇の椅子に腰かける。

② 同・廊下

山下が病室から出てくる。

廊下の向こう側から村田純一郎（55）、

医師達を連れて歩いてくる。

山下、道をゆずる。村田、山下の横で立ち止まる。

村田「例のクランケ、どうしてる？」

山下「依然、症状の変化はありません」

山下、じっと村田を見る。

村田「間違いは……ない。そのまま治療を続けたまえ」

山下「しかし、数値が――」

村田「いいから。君は私が診断を間違えてい
る。そう言うのかね？」

山下、一歩下がり、頭を下げる。

山下「いえ……」

村田「わかればよろしい」

村田と医師達、廊下を歩いていく。

山下、廊下を歩いていく。

③同・食堂

村田が飯を食べている。

お盆を持った山下、村田の前に歩いて
くる。

山下「ここに座ってもよろしいですか？」

村田、じつと山下を見つめる。

村田「かけなさい」

山下、座る。

山下と村田、黙々と飯を口に運ぶ。

山下「例のクランケの花山君の事です」

村田、山下を見る。

山下「回復の兆しがない。教授はどうお考えですか？」

村田「薬の効き方には個人差がある。村田病に関しての私の論文は読んだかね？」

山下「はい。唯、診断方法にいささか疑問が残ります」

村田「君は以前から、そう主張するね。君には村田病について、私よりも深い知識があるのかね？」

山下「誤診であれば、治療方針が変わります。例えば、ステルス心臓病の場合、早く手術をしたほうが――」

村田、食器を盆に置き、立ち上がる。

村田「不愉快だ」

山下、啞然として村田を見上げる。

山下「お待ちください！」

村田、立ち去る。

山下、顔の前で指を組む。

花山がベッドで体を起こしている。花山は左手に野球グローブを手にはめ、右手に野球ボールを持っている。

花山、グローブにボールを投げる。
バインダを持った山下、入って来て、

花山の前に来る。

花山「先生」

山下「調子はどうだい？」

花山「ああ、……はい、まあまあです」

花山、ほおをかく。

山下、花山のベッド前の椅子に座る。

山下「そうかい？」

花山、不安そうに山下を見つめる。

花山「(震える声)俺そんなに悪いすか？」

山下、バインダから花山に視線を移す。

山下「えっ、いや……何もないなら良いんだ」

花山、首をかしげる。

花山「先生、俺甲子園にできやいけないんですけど、退院できるっすか？」

山下「幸いにもうちの病院には君の病気に関

して第一人者の村田先生がいる……うまく
いけば、試合に出られるだろう」

花山の顔に安堵の笑顔が広がる。

山下、じっと花山を見つめる。

花山「な、何すか？」

山下「診断は、検査と君の言葉からしたもの
だ……花山君。君は嘘をついてないね？」

花山「そんな訳ない……すよ」

山下、まゆをひそめる。

花山、目線をそらしてパジャマの胸元
をつかむ。

山下「胸が痛むのかい？」

花山、胸から手を放す。

花山「あ、いや……触ってただけっす」

山下「……甲子園球場での試合ではスタメン
なのかい？」

花山「(いきいきと) あ、そうです。だから、
俺、早く治して戻らないと試合が終わっち
まうんです」

山下「私は、今シーズン、安静にしておいた

ほうが良いと考えている。村田教授の投薬治療での負担が少ないといっても――」

花山「先生は俺達を知らないから言えるんですよ！　ずっと甲子園を目指してきた。それこそ命に代えても出場して……優勝をもぎとってきますよ！」

山下、ため息をつく。

山下「……もし、誤診だった場合、命に関わることなんだ。君は、本当に、自覚症状がないんだね？」

山下、じつと花山をみつめる。

花山、目を見開き、固唾を呑む。

花山、口を開く。

山下、身を乗り出す。

グローブに収まったボールを見る花山。

花山「大げさだなあ。本当に何もないうすよ」

花山の笑顔。

山下「そうか……変な事を言っただけだった」

山下、廊下に出て行く。

⑤ 同・病室・前

山下、病室から出てきてのんびり歩く。

⑥ (回想) 同・病室

ベッドの上で笑顔の花山。

花山「大げさだなあ先生」

花山、パジャマの胸を握っている。

花山「本当に何もないっすよ」

パジャマを握った花山の手。

⑦ 同・元の病室・前

山下、顔を上げ真剣な面持ちで廊下を歩き始める。

⑧ 同・院長室

山下と院長席に座る村田が向かい合っている。

村田「もしクランケの腹を開いて何もなかったじゃすまされんよ」

山下「私には確信があります」

村田「君は、この病院がクビになるだけでは
すまされない。うちの関連の病院では使っ
てもらえなくするよ」

山下「私には確信があります」

村田「彼のご両親にはどう説明する？ 誤診

かもしれないで、許可が下りるかな？」

山下「説得して見せます。彼は嘘をついてい
る」

村田「話にならないな。患者と信頼関係を築き
たまえ。君は担当医だろ？」

山下「だから、私は最初から、言ってるので
す。彼は大変危険な状態かもしれない……
と」

村田「……次に手術室が開くのを待ちなさい」

山下「……駄目です。遅すぎます」

村田「いい加減にきなさい！」

山下、頭を下げて、部屋から出て行く。

⑨ 同・手術室・前

手術中のランプがつく。

⑩ 同・手術室

横たわる花山の回りで、沢渡雪菜さわたり（27）と手術スタッフが準備している。

手術着の山下が部屋に入ってくる。

山下「それではオペを開始します。よろしく
お願いします」

山下、頭を下げる。

⑪ 同・手術室・前

花山貞男はなやまさだお（47）と花山満子はなやまみつこ（46）がベ
ンチで手を合わせ、祈っている。

⑫ 同・手術室

額に汗をかき、手術に没頭する山下。
雪菜、山下の汗をふく。

⑬ 同・手術室・前

手術中のランプが消える。
手術室から出てくる山下。

貞男と満子、山下に注目する。
山下、微笑む。

⑭ 同・会議室

カンファレンスの様子。壇上に立つ山下。最前列に座る村田。山下の横のスクリーンに花山敬太のカルテが映し出されている。

山下「花山敬太さんは当初、診断された村田病とは、異なる症状を訴えました。心臓に野球ボールが当たったショック症状を起している事がわかり、心臓のオペをしました。術後の経過は順調です。村田教授の投薬治療を進めていましたが……」

山下、村田を見る。

村田「ふん。クランケは村田病ではなかった。問題ないだろう。問題は君が強行に手術をおし進めた事だ。覚悟しておくように」

山下「覚悟の上です。以上です」

山下、頭を下げる。

著者HP：[鳥野の箱庭](#)

